

令和3年度第9回治験審査専門部会

【会議の記録の概要】

開催日時	2022年03月23日 17時00分～17時40分
開催場所	第2会議室
出席委員	辻本 広紀、佐藤 貴浩、竹内 大、津田 均、石塚 俊晶、吉野 相英、河邊 和広、大塚 正征、小杉 隆祥、酒井 行信、平 尚美
欠席委員	足立 健
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題1. MSDの依頼によるBRCA 変異陰性の進行上皮性卵巣癌の未治療患者を対象としたペムブロリズマブ及び化学療法併用投与後に維持療法としてペムブロリズマブ及びオラパリブ併用投与又はペムブロリズマブ単独投与の第Ⅲ相試験（整理番号：2022-2） 安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。 審査結果：承認</p> <p>議題2. 中外製薬株式会社の依頼による加齢黄斑変性患者を対象としたFaricimab の第Ⅲ相試験（整理番号：2022-3） 同意・説明文書の変更に伴い、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。 審査結果：承認 ・竹内 大委員は、当該治験に関与するため審議及び採決に不参加</p> <p>議題3. シミック株式会社の依頼による卵巣癌患者を対象としたRucaparib (CO-338) とニボルマブ (BMS-936558) の併用第3相試験（整理番号：2022-4） 安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。 審査結果：承認</p> <p>議題4. MSD株式会社の依頼による進行又は再発の子宮体癌患者を対象としたペムブロリズマブ(MK-3475) とレンバチニブ(E7080/MK-7902) の併用療法と化学療法を比較する第Ⅲ相無作為化多施設共同非盲検試験(LEAP-001)（整理番号：2022-5） 安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。 審査結果：承認</p> <p>議題5. 武田薬品工業株式会社の依頼による原発性免疫不全症候群の日本人被験者を対象としたIGSC, 20%の第Ⅲ相非盲検試験（整理番号：2021-9） 安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。 審査結果：承認</p> <p>議題6. パレクセル・インターナショナル株式会社の依頼によるバイエル薬品株式会社の依頼による糖尿病黄斑浮腫患者を対象とした高用量アフリベルセプトの第II/III相試験（整理番号：2022-7） 安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。</p>

	<p>審査結果：承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹内 大委員は、当該治験に関与するため審議及び採決に不参加 <p>議題7. マルホ株式会社の依頼によるnemolizumabの結節性痒疹患者に対する第Ⅱ/Ⅲ相試験－比較/長期継続投与試験－（整理番号：2022-8） 安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。</p> <p>審査結果：承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤 貴浩委員は、当該治験に関与するため審議及び採決に不参加 <p>議題8. 中外製薬株式会社の依頼による糖尿病黄斑浮腫患者を対象としたファリシマブの継続投与試験（整理番号：2022-10） 治験実施計画書の変更及び明確化レター1, 同2に伴い、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。同意・説明文書の変更に伴い、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。</p> <p>審査結果：承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹内 大委員は、当該治験に関与するため審議及び採決に不参加 <p>議題9. 武田薬品工業株式会社の依頼によるPID日本人におけるIGSC, 20%の長期安全性及び忍容性試験（整理番号：2022-11） 安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。</p> <p>審査結果：承認</p> <p>議題10. 中外製薬株式会社の依頼による中外製薬株式会社の依頼による加齢黄斑変性患者を対象としたファリシマブの継続投与試験（整理番号：2022-13） 同意・説明文書の変更に伴い、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。安全性情報について治験責任医師の見解に基づき、引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。</p> <p>審査結果：承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹内 大委員は、当該治験に関与するため審議及び採決に不参加 <p>【報告事項】 報告事項 治験終了報告 令和4年2月21日「研究題目（2021-9）原発性免疫不全症候群（PID）日本人患者を対象としたIGSC 20%の第Ⅲ相非盲検試験」の終了報告が提出された。</p> <p>その他 「研究題目（2022-9）プラチナ製剤抵抗性の再発卵巣がん患者を対象としたOfranergene Obadenovec（VB-111）＋パクリタキセル群とブラセボ＋パクリタキセル群の多施設共同無作為化二重盲検比較試験（OVAL試験）」の第8回治験審議専門部会（令和4年2月16日開催）で来年度への継続の審議の際に提出されたポイント表が、被験者の状況が変わったため一部変更となったことが事務局より報告された。</p>
特記事項	